

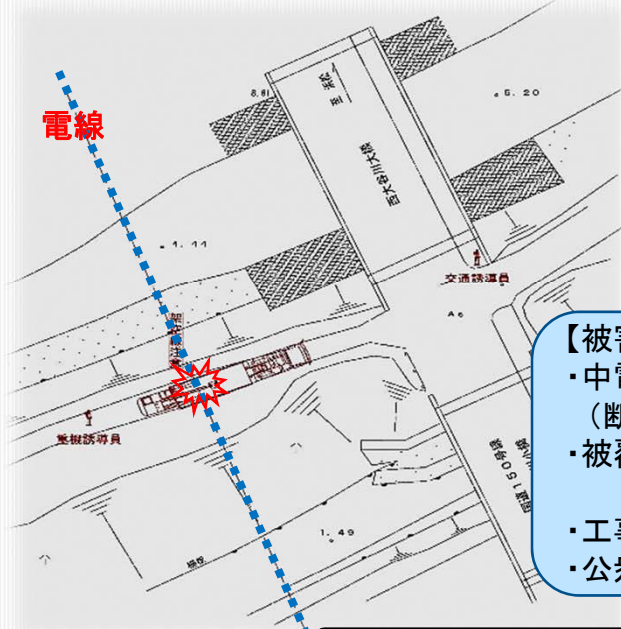
# 工事事故防止行動計画 ニュースレター

工事事故「0」を目指して

2019.11.29

12号

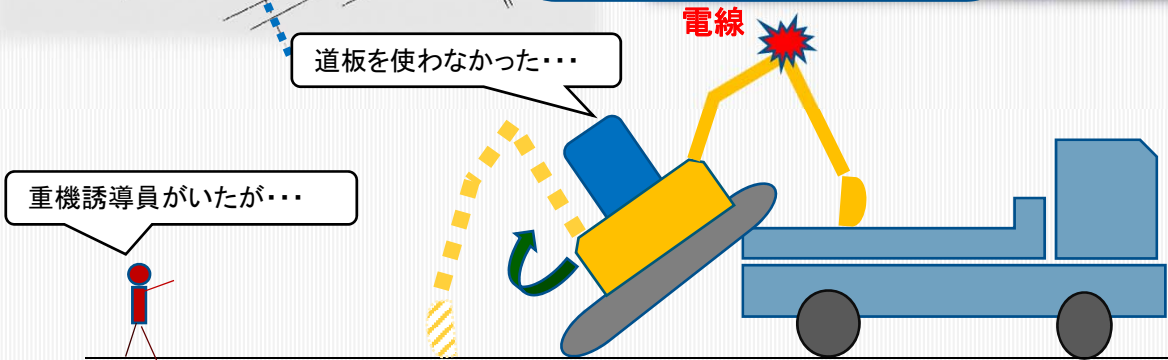
## 令和元年6月10日事故発生



**【被害】**  
 ・中電高圧線被覆損傷  
 (断線なし)  
 ・被覆補修に要した時間 1.7h  
 ↓  
 ・工事中断 7日間  
 ・公衆損害で「減点」

道板を使わなかった...

重機誘導員がいたが...



### 【事故の概要】

- 河川護岸工事現場付近の堤防道路上での作業用重機運搬車両からのバックホウ荷卸し中、電線に接触
- 架空線対策として注意喚起旗の設置、ハザードマップに記載、安全教育実施、誘導員配置の対策を講じていた。
- 荷卸しは、架空線位置より下流側の影響のない場所で行う予定であったが、降雨により未舗装の堤防道路のぬかるみにタイヤがはまり運搬車両が傾き、それ以上の走行が困難となったため、そこで荷卸しすることとなった。バックホウのバケットを使い自力で降りる予定でバケットを地面につけ荷卸しを始め、キャタピラが着地した時点で運搬車荷台を支点にしてバックホウを降ろすつもりでアームを荷台側に旋回したときに架空線に接触してしまった。
- アーム旋回時、オペレーターに架空線の認識が無く、誘導員の確認もしなかった。
- 誘導員はバックホウで遮られ、架空線とアームとの位置関係が明確に視認できなかったため、作業停止指示できなかった。

**【再発防止策】は、裏面参照⇒**

交通基盤部 土木工事 事故発生件数	事故分類	工事関係者(傷害)	第三者(傷害)	第三者(物損)	工事事故合計	令和元年 10月末現在 (前年同期)
	件数	0件(1)	0件(1)	18件(21)	18件(23)	

**令和元年10月31日までで「死亡事故ゼロ」1322日を達成しました！**

## 【再発防止策】

- バックホウ等重機の現場への搬入・荷卸し等は気象や現場の路面状況等勘案し走行に支障の無い措置、荷卸しでの道板の使用等、状況に応じて適切かつ安全な対応をすること
- 誘導員は支障物件が見えず重機のアーム等との接触の可能性等判断できない場合には作業を中断させ、安全を確認してから再開させること
- バックホウオペレータはアームを旋回するときには旋回先の支障物件の有無を確認すること

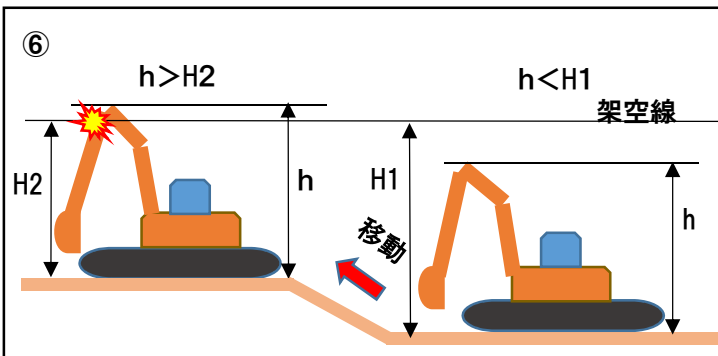
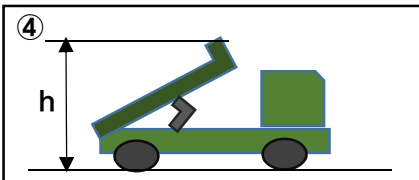
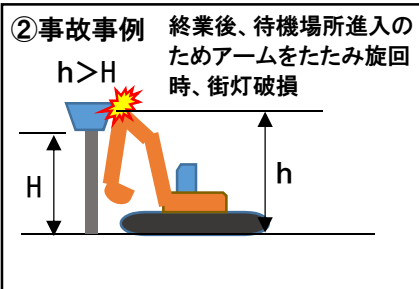
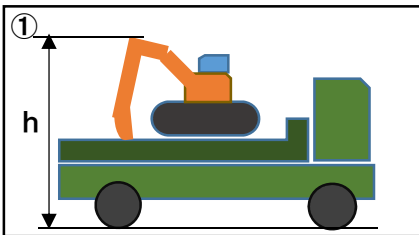
## 現場の頭上支障物件接触事故防止のための事前確認・対策フロー

従前の架空線や街灯、橋桁等の損傷事故の原因は、着工前の事前の頭上支障物件の高さの未確認、作業による影響範囲の周知不足、誘導員不在時の重機の装置の移動先の未確認等によるものである。

それらを踏まえて、接触事故等防止のための事前確認対策フローを作成したので、参考にされたい。

### 作業工程での頭上影響範囲hの確認

- ①バックホウ等の搬入・搬出時  
(運搬車荷台高+バックホウ等アーム高)
- ②日々のバックホウ等の現場への進入・退出時  
(バックホウ等のアーム高)
- ③バックホウ等アーム最大上げ高
- ④ダンプのダンプアップ高
- ⑤施工基面の最大高時の①～④の高さ
- ⑥ヤード内移動時の③④の高さ



### 現場の頭上支障物件までの高さHの調査

- #### 現場の頭上支障物件の確認
- ・架空線
  - ・街灯
  - ・看板、案内標識
  - ・橋桁 等

- #### 頭上支障物件の高さHの確認
- 施工基面から頭上支障物件までの高さ  
(施工基面変化時は最大高時を考慮)  
(最大高時:高さH最小時) 図⑤参照↓

$$h \geq H$$

### 頭上支障物件接触事故防止対策

- 接触影響範囲を明示
- 柵やロープ、旗等で周囲と区分
- 路面標示
- 架空線等に防護柵、旗等をつける
- 誘導員等を付け頭上支障物件に接触しないよう指示
- 旋回・アーム引き上げ時、ダンプアップ時等に誘導員等不在の場合にはオペレータやドライバー自らが重機操作前に装置の移動先に支障物がないことを確認

